



#01

コクリマン

著：藍澤たすく

イラスト：(C)E改めかもめ遊羽



「浩二先輩、好きです！」

夕陽をバックに立つ美少女。

そのうるうるとした瞳が俺をしつかりと捉えている。さらりと艶やかな黒髪のロング、造作の整った目鼻立ち。ほんのり桜色に染まった、まるでアクセサリーのような唇。

美少女だ。まじごとなき美少女だ。

正直「放課後、体育館の裏で待ってます★」という手紙が下駄箱に入っていたときは、絶対嘘だと思った。手の込んだドッキリだと思った。

だが信じて来て良かった。こんな可愛い子が俺にコクってくれるなんて……。待つてくれ
たなんて……！

小金沢浩二。彼女いない歴15年＝実年齢。中肉中背。ペン字3級。それ以外特技なし。
そんな俺にも、ついにモテ期が、モテ期がやってきたのだあー！

「先輩、好きです！ 本当に好きなんです！」

「お、おう。俺で良ければまあ、つ、つきあ」

「だから死んでください！」

「つても良いんだぜつて、はああ!？」

精一杯かっこつけて返事をしようとした俺に意外な言葉が返ってきた。

なんだ？ 「死んでください」つて？ コクる台詞としてはおかしくね？

あ、そうか、もしかしてあれか、「俺が死ぬほど好き」つてことか？

「えい！」

「わあ!？」

いつの間にか少女の手に握られていたサバイバルナイフが最短距離で俺の心臓目がけて突っ込んできた。

すんでのところでそれを避ける。

間違いなく今までの人生で最大限に反射神経を使った瞬間だった。

つていうかあんな不意打ちよく避けたな！ 自分を褒めてあげたい！

「どうして避けるんです!？」

「なんで刺すんだよ!？」

「だってルシ子は悪魔ですから、浩二先輩と添い遂げるためには浩二先輩に死んで冥界に来

「あたしの浩二くんは何をしているの！」

え？ 美可子先輩、今、「あたしの」って言った……………？

「なぜ!? ルシ子の張った結界は完璧のはず……!? いいもん！ 邪魔するやつはぜーんぶ皆殺しだから！」

一瞬だけ驚愕の色を浮かべた少女は一転、睨みつけるような視線を美可子に叩きつける。

「悠久の闇よ、汝が血の契約により怨敵撃ち砕くべし！」

「清冽なる光条よ、三位一体の真理によりて穢れし魂を殲滅せん！」

二人の声が重なって響いた瞬間、溢れ出る漆黒の闇と煌く光が正面から激突し、地鳴りのような爆発音が衝撃波を伴って世界を庄倒した。

何、これ？ いったい何が起こってるの……………？

「く……………覚えてなさいよ！」

薄れゆく意識の最後に、悪魔少女の悔しげな呟きが聞こえたような……………気がした……………。

「大丈夫？ 浩二君？」

目を開けると、美可子先輩が心配そうに俺を覗き込んでいるのが判った。

「あれ？ 俺……………」

「良かった、浩二君に何かあったらあたし生きていけないもの」

安堵した表情で語りかける先輩の背中には……………純白の羽根が広がっていた!?

「あの、先輩、ミカ子って……………まさか……………ミカエル、ですか……………?」

「あら？ 知らなかったの？」

楽しそうにころころと笑う先輩の手には、なぜかどこかで見たとあるようなサバイバルナイフが握られていた。

「さあ、浩二君。あたしと天界で、永遠に、幸せに、暮らしましょう。大丈夫、痛いのは一瞬だけだから」

おしまい